

〔採藥使記甲州〕重康曰、甲州御城中ニテ牡丹ヲ見シニ、甚ダ大ク木ノ高サ一丈五尺バカリモアリ、花ハ未ダ見ズトイヘドモ、色紅ニテ年ニヨリ百二三十輪モ花ヲ開クト云フ、誠ニ土地ニ應ジタル故カ、願クハ此根ヲ採リ藥用ニセバ、其功甚効アラソトヲ、

光生按ズルニ、牡丹ノ大木トナルコト所々ニアルコトナリ、攝州菟原郡熊内村ト云フ所ニ、高サ一丈餘ノ牡丹アリト、輿地通志ニモ載タリ、又中華ニモコレアルニヤ、湧幢小品ニイハク、青城山ニ牡丹アリ、樹ノ高サ十丈、六十年ニ一度宛花開ク、永樂年中花咲シ時、蜀獻王使ヲ以テ見セシム、即チ花ヲ取リテ歸リシト、廣群芳譜ニモ引ケリ、

〔武江產物志遊觀〕牡丹 西ヶ原牡丹屋立夏三日頃 深川八幡園別當中 上北澤村園左中 龜戸社内先年大牡丹

丹あり、天明の洪水に枯る

〔續江戶砂子五〕雜樹の部

緋の衣ぼたん也 上野御本坊

〔牡丹道乾〕一花十三の盛ハ大カテ立春より九十日なり、下品のはなハ十日も早く咲出る也、一國の内にて、少の遅速あるなり、洛中都外二日の違有、南都ハ五日遅し、勢尾の兩國八十八夜の比大概たがはず、駿府ハ六七日はやし、賀州越前五七日遅し、攝州播陽ハ氣候同して京にハ二日もはやし、筑陽ハ五日はやし、

〔牡丹道坤〕一牡丹の苗牙を矢と名付る事、人毎にいへども、いかなる故といふ事をえらす、或人云、生發の氣をさして矢といふにやと、えからバ矢といふ名ハ余のもろくの苗牙に通すべしと、おもふに牡丹の子の親木のもとより真ますぐまに生出たる、其形恰もよく矢頭びとに似たるゆへに名付る成べしげに似たる物を能よぞ思ひ出たるとおかし、それ哲人の物に名付る事、其形をもつてする、此類おほし、尤實まばへのハ矢といはず、